

子供が主役の授業づくりを目指して

西部教育事務所 所長 黒澤 英樹

瑞々しい新緑が鮮やかで、さわやかな季節となりました。各学校では、新一年生や新しい先生方を迎え、順調に学校が運営されていることと思います。

さて、指導主事から最近の授業の様子を聞くと、授業スタンダードは大分定着してきているので、その質を向上させることが必要だという話を聞きます。例えば、「めあて」は提示されているものの、子供を見ると受け身であったり、追究への意欲が十分喚起されていなかったりする授業もあるということでしょう。

授業スタンダードが定着し、先生方が同じ方向で授業づくりに取り組み始めている中、「形はどうか」という視点と「子供たちの学びはどうか」という視点の、両面から授業を捉える必要があると考えています。

先生方も「この授業は良かった！」と、授業を参観して感想をもったことがあると思います。私も記憶に残っている授業がいくつかありますが、その共通点として、次のようなことが挙げられます。

- 子供が夢中になっている。子供たちの思考が集中し、考えが深まっていく様子が見られる。
- 子供たちの発言の中に「なるほど」「分かった」と納得する瞬間が多い。子供の発見や主張を教師が的確に見とっている。
- 子供の成長が見られる。一時間前には見られなかった、気づき・視点・疑問・発展といった「新たなものの見方・考え方」が身に付いている。

子供が夢中になり、ねらいを達成できる良い授業は、結果としてスタンダードの要素を踏まえていると言えるでしょう。しかし、スタンダードに当てはめて授業づくりをすれば、必ずしも子供が夢中になるとは言えません。「めあてに向けての動機付け→めあての提示→個や集団での主体的な追究→まとめ→振り返りへの動機付け→振り返り」という一連の過程を子供の目線で構築し、子供が主役の授業づくりを進めてほしいと考えています。

さて、平成30年度は、多忙化解消に向けた一步を踏み出す年でもあります。西部教育事務所としては、研修や会議の見直し、指導案形式の簡略化に取り組むと共に、削減された研修等の代替として情報発信の充実に取り組みたいと考えています。

具体的には、ホームページと指導資料「せいぶ」の充実になります。

ホームページについては、メニューを大幅に見直し、必要な資料を年度ごとに整理するなど、情報を取り出しやすくしました。また、他の教育事務所へもリンクを張り、県内各地の教育情報を得られるように工夫しました。

「せいぶ」については、年3回の発行だったものを4回とし、「社会に開かれた教育課程」や「知・徳・体のバランスのとれた児童生徒の育成」に向けて、紙面を構成したいと考えております。

是非、職員会議や校内研修等で活用していただきますよう、お願いいたします。



各学校における教育目標の具現化に向け、西部教育事務所では下記の事業及び支援を行っています。

学力向上

・「学力向上推進事業」

- ※ 管内6校(高崎市立浜尻小学校、富岡市立高瀬小学校、安中市立碓東小学校、甘楽町立小幡小学校、高崎市立入野中学校、藤岡市立東中学校)の指定校に、組織的な学力向上対策を進めていただいています。6月の学力向上コーディネーター研究協議会では取組の実践発表、秋には公開授業を予定しています。
- ・「要請訪問」(学力向上に係る講義や授業研究の指導助言など)
- ※ 学力向上に係る講義や授業研究の指導助言などを行います。事務所で作成したリーフレットやDVDを使って具体的に授業づくり等について先生方と一緒に協議します。

生徒指導

・「生徒指導充実支援事業」

- ※ スクールソーシャルワーカーの派遣ができます。いじめ、不登校、学力不振、非行等の問題に対して、福祉の面から専門的な知識や技術を用いて、児童生徒が置かれた様々な環境へ働きかけたり、関係機関等とのネットワークを活用して、問題を抱える児童生徒に支援を行ったりします。

特別支援

・「専門相談員の派遣」

- ※ 各学校・園等に在籍する特別な支援を必要とする幼児児童生徒への指導について、先生方の相談に応じています。通常の学級・特別支援学級・通級指導教室を問いません。

※上記事業・支援については、西部教育事務所(027-322-5915)へお問い合わせください。

